

国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校
教諭 〇〇 〇〇

1 日 時 令和3年〇月〇日(〇)～ 令和3年〇月〇日(〇)

2 学年・組 第6学年〇組

3 単元名 書き表し方を工夫して、経験と考えを伝えよう「大切にしたい言葉」

4 単元の目標

- (1) 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
[知識及び技能] (1)オ
- (2) 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることができる。
[思考力、判断力、表現力等] B(1)オ
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

5 単元で取り上げる言語活動

座右の銘を選んで自分の経験と結び付け、卒業文集に載せる文章を書く活動（関連：[思考力、判断力、表現力等] B(2)ウ）

6 単元の評価規準とめざす児童の具体的な姿

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。(1)オ)	○ 「書くこと」において、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えている。(B(1)オ)	○ 粘り強く、文章の書き表し方に着目して文を整え、学習の見通しをもって、事実や経験を基に自分の考え等をまとめた文章を書こうとしている。
○ 目的や意図に応じた表現になるよう、語や語句を吟味して使っている。	○ 座右の銘を紹介する随筆を書く際、目的や意図に応じた適切な表現となっているかを吟味し、文や文章を書き直している。	○ 座右の銘を紹介する文章を書く際に、自分の経験を想起しながら内容を考え、目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く吟味して文章を書き直そうとしている。

7 単元に関して

(1) 児童観

(略)

(2) 教材観

本教材では、いつも身近において自分を励ましたり、自分の目標としたりする言葉である座右の銘を、「大切にしたい言葉」として紹介する文章を書く。座右の銘を決め、紹介するためには、出来事や経験を自分なりに解釈し、その経験と選んだ言葉とを関係付けて意味付けることが必要である。本教材は、これまで過去の出来事や経験を自分なりに捉え直す機会の少なかった児童に、言葉を通して物事を見つめることや、自分の考えを言語化すること、その表現を吟味することに適している。

また、本単元では、「座右の銘を選んで自分の経験と結び付け、卒業文集に載せる文章を書く活動」を言語活動として設定する。児童はこれまでに、生活作文、観察記録文、手紙、紹介文、報告文、ポスター、物語、詩、俳句などの様々な形式の文章や詩歌を書く活動を行っているが、随筆を書くことは初めてである。

随筆は、身近な出来事や経験を振り返り、その時の自分の思いを見つめ直して表現する文種であり、児童は自分の伝えたい思い（意図）を自覚しやすい。そのため、意図が伝わる言葉を吟味していく活動を十分行うことで、目的や意図に応じて適切な表現に書き直す力を育成することができる。推敲過程で伝えたいことに適した表現になるよう言葉にこだわって吟味する活動を行うことは、語感や言葉の使い方に対する感覚を鋭敏にし、活用語彙を拡充することにもつながっていくと考える。

(3) 指導観

目的や意図に応じて、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える力を育成するために、本単元では以下の工夫を行う。

① 「表現と意図ぴったりシート」の開発と活用

自身のこれまでの指導では、文章を書き始める前に、目的や意図を明確にするように指導していたものの、推敲の際には、その目的や意図に立ち返ることなく、完成した文章の誤字・脱字や文法的な誤りを確認するばかりで、児童の記述が当初の目的や意図に正対しないことが多くあった。

そこで本単元では、内田（1999）の、「表現したかった『意図』は、構成を考える段階よりも、推敲場面でこそ明確になる」との論に基づき、推敲場面において、書き手が記述時にもっていた考え（意図）と、実際に書いた下書きや清書の記述（表現）を比較し、改めて目的や意図を確かめて修正することのできる「表現と意図ぴったりシート」を開発し、活用する。

また、個人での推敲に加え、児童の相互推敲を行い、書き手の意図が伝わる表現になっているかどうかを観点に助言し合うことで、相手意識をもって文章を書き直す力の育成を図る。

表現と意図ぴったりシート

② 「表現と意図の調整」を促す観点の提示

自身のこれまでの実践では、児童が推敲をする際の観点を提示していなかったため、児童は何を見直せばよいか分からず、その推敲が誤字・脱字の確認にとどまり、表現の妥当性の吟味やよりよい表現の検討が十分に行われていなかった。

そこで本単元では、自分の文章を意識的に読み返すことができるように、児童に推敲の観点を提示する。表現と意図の調整に必要な観点として、内田（1999）を参考に以下の三点にまとめた。

- ・ 自分の意図が相手に「より正しく」伝わる表現の工夫はないか（命題の言語化）
- ・ 自分の意図が相手に「より分かりやすく」伝わる表現の工夫はないか（読み手の意識化）
- ・ 自分の意図が相手に「より強く」伝わる表現の工夫はないか（修辭的工夫）

指導に当たっては、推敲の観点と直し方の具体を示したワークシートを児童に配付して共有するほか、教師が提示したモデル文を学級全体で書き直す活動を取り入れ、どのように修正するのかを確かめることによって、児童が意識的に表現と意図の関係に着目し書き直すことを促す。

8 単元の学習と評価の計画（全9時間）

次	時	学習活動	評価規準・評価方法
一	1	○ 学習の見通しをもち、必要な情報を集める。 ・ 例文を比較し、随筆の特徴を捉える。 ・ 座右の銘を紹介する随筆を書き、自分の考えを伝えるという学習課題を確認する。 ・ 座右の銘にしたい言葉を探す。	
二	2	○ 座右の銘にしたい言葉を決め、選んだ言葉と結び付く経験や感じたことを整理する。 ・ 本単元で付けたい力を確認する。 ・ 座右の銘と関連付けられる経験を想起する。 ・ 座右の銘を通して伝えたい考えや思いをまとめる。	【主体的に学習に取り組む態度】 <u>観察、発言、振り返りの記述</u> ・ 座右の銘にしたい言葉と自分の経験や考えを結び付けようとしている。
	3	○ 文章全体の構成を考える。 ・ モデル文を提示し、基本的な構成を確認する。 ・ 目的や意図を確かめ、構成メモを作成する。	【知識・技能】 <u>作文の記述</u> ・ 語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、適切な語や語句を使っている。
	★ 4・5	○ 下書きを書く。(推敲①) ・ 構成メモを基に「表現と意図ぴったりシート」に下書きを書く。 ・ 「表現と意図ぴったりシート」で、下書き記述時の意図を振り返る。	【思考・判断・表現】 <u>作文の記述</u> ・ 目的や意図に応じた適切な表現となっているかを吟味し、文や文章を書き直している。
	★ 6	○ 下書きを推敲する。(推敲②) ・ モデル文を示し、 <u>推敲の観点</u> を基に全体で推敲をする。 ・ <u>推敲の観点</u> を基に、「表現と意図ぴったりシート」に書いた自分の意図と実際に書いた表現の関係を確かめ、下書きを書き直す。	【主体的に学習に取り組む態度】 <u>振り返りの記述</u> ・ 座右の銘を紹介する文章を書く際に、目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く吟味し、文章を書き直そうとしている。
	★ 7	○ 下書きを友達と相互に読み合い、助言し合う。(推敲③) ・ <u>観点に沿って</u> グループで推敲し、文章を書き直す。	
	★ 8	○ 下書きを清書する。(推敲④) ・ 「表現と意図ぴったりシート」で、改めて意図と表現の関係を確かめ、清書する。	
三	9	○ 読み合って感想を伝える。 ・ 作品を読み合い、友達のものの方の見方や考え方についての感想を付箋に書いて伝え合う。 ・ 単元を振り返る。	

※ ★は研究の手立ての有効性を検証するための時間である（下線は手立てとなる活動）。

<参考文献>

- ・ 内田伸子『発達心理学』岩波書店、1999年

〈第1時〉

(1) 本時の目標

- 随筆の特徴を捉え、「座右の銘にしたい言葉を選び、自分の経験と結び付けて随筆に書いて伝える」という学習の見通しをもつことができる。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
知識及び技能	随筆の特徴を説明することができる。	随筆の特徴について、「出来事や経験」「意見や感想」「自分なりの見方や考え方」をキーワードにして説明している。

※ 本時は、(1)カに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、単元の目標としていないことから、本単元の評価には含めない。

(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
<p>1 これまでに出会った印象的な言葉を想起して交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本で、「今日できることを明日に延ばすな」という言葉を見た。 ・ 母から、「まちがいが大切」といつも言われている。 <p>2 単元の学習課題を確認する。</p> <p>学習課題 座右の銘をテーマとせず、い筆を書き、自分の考えや思いを読む人に伝えよう。</p> <p>3 本時のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ずい筆の特徴を知り、学習の見通しをもとう。</p> </div> <p>4 二つの参考作品を読み、随筆の特徴を捉える。</p> <p>① 二つの参考作品に共通する構成を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ はじめに、座右の銘が出てくる。 ・ どちらも経験が書いてある。 ・ その時に思ったことが書いてある。 ・ 座右の銘と出会って、自分の考え方が変わっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童の本単元への意欲を高めるため、できるだけ児童自身から「印象的な言葉」について発表させるようにする。 ○ 肯定的な発言を促すため、傷ついた言葉や嫌だと感じる言葉についての発表が出たら、単元名が「大切にしたい言葉」であることを伝えたり、前向きになれた言葉を発表することを伝えたりする。 ○ 相手意識や目的意識を高めるために、完成した文章をまとめてクラス文集を作成すること（卒業文集に活用すること）を伝える。 ○ 本単元で扱う随筆の基本的な組み立てを捉えられるよう、二つの作品に共通する構成について気付いたことを発表させる。 ○ 児童の発表に内容と感想が混在している場合には、両者を分類して板書する。 ○ 二つの作品の共通点を確認することを通して、本単元における随筆では、「座右の銘」「出来事や経験」「感想や意見」「自分なりの見方や考え方」を内容とすることを確認する。 	

<p>② 随筆を書くことよさを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 経験が詳しく書いてあると、その人らしさが伝わってくる。 自分だけの経験や感想があると説得力が増す。 座右の銘を選んだ理由を読んで、自分も同じ気持ちになった。 <p>5 座右の銘にしたい言葉を、思い出したり調べたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生から、「自信をもって」と言われたことがある。 イチローが、「小さいことを積み重ねるのが、とんでもないところへ行くただひとつの道だと思っています。」と言っていたのをテレビで観たことがある。 <p>6 見つけた言葉を「大切にしたい言葉カード」に記入し、全体で共有する。</p> <p>7 本時の学習を振り返りカードに記入する。</p>	<p>○ ①の内容から、その構成で随筆を書くことよさについて交流し、随筆の特徴としてまとめ明示する。その際、「出来事や経験」「感想や意見」「自分なりの見方や考え方」が「読み手に『その人らしさ』を伝える」という目的に深く関わることを強調する。</p> <p>C：随筆のよさやおもしろさをイメージしにくい児童には、「座右の銘を書くことで何が伝わりやすくなるのか」、「経験を書かなかつたら読み手の感じ方はどう変わるか」等、視点を具体化、焦点化して考えるよう促す。</p> <p>○ 選択の幅を広げられるよう、自分の好きな有名人の言葉や、「かっこいい」と思った言葉なども候補に挙げてよいことを伝え、様々な言葉を集めさせる。</p> <p>○ 書籍だけではなく、家族や友達から言われた言葉でもよいことを伝える。</p> <p>○ 「名言」を集めた書籍や「随筆・エッセイ集」を教室に置き、学級文庫として日常的に児童が読める環境を整える。大切にしたい言葉を選ぶときや、随筆の書き方を学ぶときに活用する。</p> <p>C：なかなか見つけられない児童には、「名言集」を一覧にした資料を用意し、その中から選ぶよう支援する。</p> <p>○ 学級全体で座右の銘にしたい言葉を共有するため、座右の銘にしたい言葉を見つけたら、「大切にしたい言葉カード」に記入し、模造紙に貼り付けて掲示する。</p> <p>○ 「大切にしたい言葉カード」に、「どんな自分に伝えたい言葉か？」を考える欄を設け、自分の経験と言葉を結び付けて考えることを意識付ける。</p> <p>○ 第2時までで一週間程度時間を取り、座右の銘にしたい言葉を見付けるための取材活動を十分に行えるよう配慮する。</p>	<p>[知識・技能]</p> <p>B：随筆の特徴について、「出来事や経験」「感想や意見」「自分なりの見方や考え方」をキーワードにして説明することができる。(発表、行動観察、振り返りカードの記述)</p>
--	---	--

大切にしたい言葉

めあて

ずい筆の特徴を知り、学習の見通しをもとう。

ずい筆の特徴

(共通する内容)

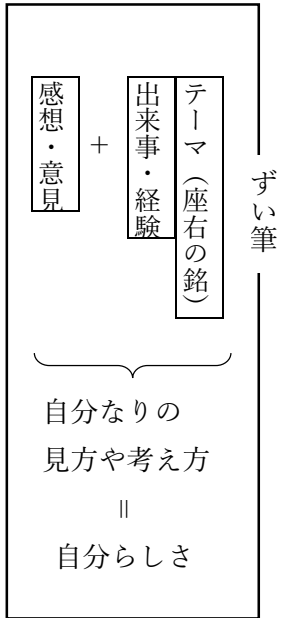
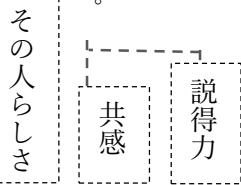
- ・ はじめにテーマ(座右の銘)が出てくる。
- ・ どちらも自分の経験とその時に思ったことが書かれている。
- ・ 言葉をきっかけに、考え方が変わっている。
- ・ 常体で書かれている。

(感想)

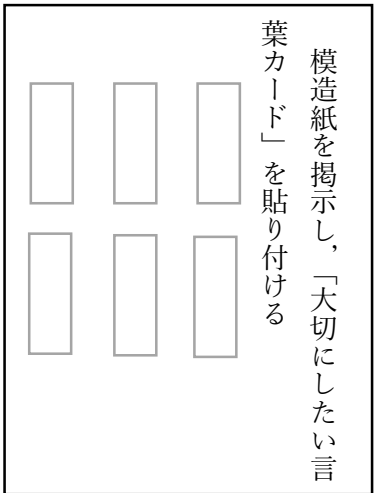
- ・ 本田選手の言葉から、将来の夢をまた叶えたいと思えたところがすごい。
- ・ 発想を変えると前向きに考えることができると思った。

(ずい筆のよさ・おもしろさ)

- ・ 経験をを通して、自分の考えを伝える
- ・ 自分らしさが感じられる、説得力がある、共感できる



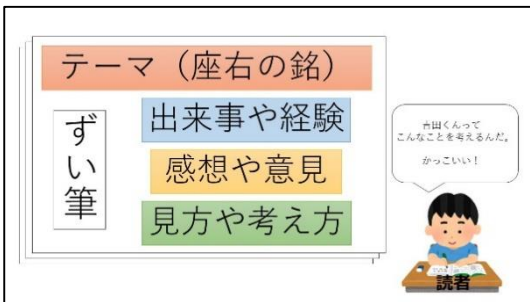
○ 「座右の銘」にしたい言葉を集めよう



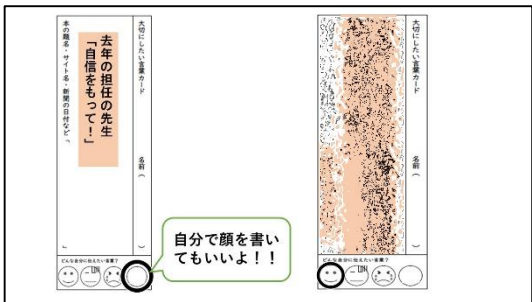
まとめ

- ・ ずい筆は、「出来事や経験」と「感想・意見」を書くことで、自分らしさを伝える文章だと分かった。
- ・ 「大切にしたい言葉カード」から座右の銘を選んで、自分の経験とつなげて文章を書くという学習の流れだと分かった。

※学習活動4の場面で児童に提示したスライド資料



※学習活動5の場面で児童に提示したスライド資料



〈第2時〉

(1) 本時の目標

- 自分の経験を振り返って紹介する「座右の銘」を決め、自分にとっての言葉の意味（自分なりの見方や考え方）を明確にすることができる。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
思考・判断・表現	「書くこと」において、自分の経験を振り返り、出来事やそのときの感想等、随筆に書くための材料を集め、伝えたいことを明確にすることができる。	座右の銘と自分の経験を結び付けて、ワークシートに①出来事や経験、②そのときの感想や意見、③自分にとっての言葉の意味をそれぞれ書いている。
主体的に学習に取り組む態度	座右の銘にしたい言葉に結び付く自分の経験を想起し、進んで表現しようとしている。	座右の銘にしたい言葉と結び付く自分の経験を想起し、その経験について具体的な様子を付箋に書き出そうとしている。

※ 本時は、B(1)アに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、単元の目標としていないことから、「思考・判断・表現」については本単元の評価には含めない。

(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
<p>1 単元のねらいや進め方を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 宮沢賢治の推敲原稿から、推敲を重ねた理由や推敲に必要な視点を考え、学習で身に付ける力を理解する。 <p>何のために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読んでいる人に分かりやすくするため。(相手意識) ・ 自分の考えやイメージをきちんと伝えるため。(目的意識) <p>何を(どのようなことを)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 誤字や脱字 ・ 内容の一貫性の確認 ・ よりよく伝わる表現の工夫(推敲に必要な観点) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 推敲を身近に感じることができるよう、9月に学習した「やまなし」の作者である宮沢賢治の推敲原稿をスライドで提示する。 ○ 卒業文集の随筆を書くことを通して、①目的や意図を確かめながら書く力②意図を伝えるために観点をもって書き直す力を付けることを児童と共有できるよう、活動とねらいの関係を図式化して示す。 	
<p>2 めあてを確認する。</p> <p>座右の銘と結び付く経験やそのときの感想を思い出し、伝えたいことを明確にしよう。</p>		
<p>3 座右の銘にしたい言葉につながる経験を想起し、随筆に書く材料を集める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 座右の銘は、経験を思い出して考えを整理する中で変わってもよいことを伝える。 ○ 座右の銘の候補を絞れない児童には、複数の候補から、多くの経験と結び付く言葉を選択するように促す。 ○ 座右の銘と経験が結び付けられるよう 	<p>〔主体的に学習に取り組む態度〕</p> <p>B：座右の銘にしたい言葉と結び付く自分の経験を想起し、その経験について具体</p>

<p>座右の銘「日々の積み重ねが自信をつくる」</p> <p>→メッセージ「継続することが大切」</p> <p>○ 秋の発表会で劇をしたときに声が出なかったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家で何度も練習したつもりだったが、リハーサルも本番も自信がもてなかった ・ 本番も堂々とできず「どうして」と悲しかった ・ せりふを覚えたところで満足し、その後は練習をしなかったと気付いた ・ 花村さんは本番直前まで繰り返し練習していたので、本番もいきいきとした演技だった <p>4 経験と座右の銘にしたい言葉の関係から、自分にとっての言葉の意味（自分なりの見方や考え方）を考え、座右の銘を決める。</p> <p>○ 「日々の積み重ねが自信をつくる」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この言葉と出会って、私の努力は足りていなかったと気付いた ・ この言葉のおかげで、自信がもてるようになるまで練習することが大切だと気付いた <p>5 本時の学習を振り返り、次時の学習を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「座右の銘」から伝わるメッセージを考えることで、経験を思い出しやすくなった。 ・ 「座右の銘」と結びつく経験を思い出し、そこから自分にとっての意味を考えると、伝えたいことがはっきりした。 	<p>に、座右の銘から伝わるメッセージをワークシートに記入し、関連する経験を思い出すように伝える。</p> <p>○ 自分の経験を詳しく思い出せるようにするために、ワークシートに観点を載せる。</p> <div data-bbox="544 360 1098 510" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>詳しく思い出するための観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いつ」「どこで」「誰と」「何を」「どのように」「なぜ」 ・ 「見たこと」「行動」「会話」「感じたこと」 </div> <p>C：座右の銘と結びつく経験が思い付かない児童には、言葉のどのようなところに惹かれたのか、どのようなときに聞きたい言葉だったのか等、個別に対応しながら経験を引き出す。</p> <p>○ 振り返った経験を踏まえ、改めて自分にとっての言葉の意味を考えられるように、観点を提示して発想を促し、ワークシートに書き加えさせる。</p> <div data-bbox="544 958 1018 1144" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>観点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この言葉のおかげで ・ この言葉で〇〇に気付けた ・ あるとき、この言葉があれば ・ これからは、この言葉を思い出して </div> <p>○ 自分にとっての言葉の意味を考えた上で、さらに思い出した経験や感想があれば、付箋に書き加えるよう伝える。</p> <p>○ 自分にとっての言葉の意味が導き出せている児童を適宜取り上げて発表させ、聞いている児童に、書き方や着想のヒントを与える。</p> <p>C：自分にとっての言葉の意味が導き出せない児童には、座右の銘を知ったことで起きた気持ちの変化に着目して考えるように促す。</p> <p>○ 次時は本時作成したワークシートを参照しながら、構成メモを作成することを伝える。</p>	<p>的な様子を付箋に書き出そうとしている。(観察、ワークシート、振り返りの記述)</p> <p>[思考・判断・表現]</p> <p>B：ワークシートに①出来事や経験、②そのときの感想や意見、③自分にとっての意味を書いている。(①②ワークシートの付箋の記述、③ワークシートの記述)</p>
--	---	--

大切にしたい言葉

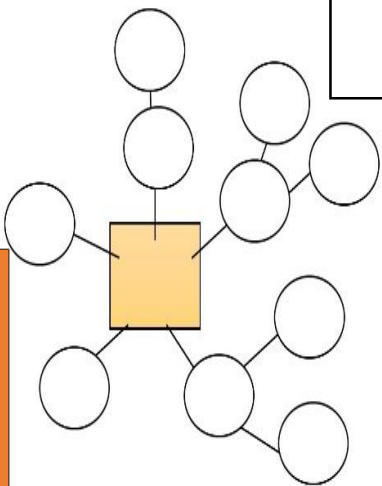
めあて

座右の銘と結び付く経験を集め、
伝えたいことを明確にしよう。

○ ずい筆に書く材料を集めよう。

5W1Hで思い出そう
「いつ」
「どこで」
「誰と」
「何を」
「どのように」
「なぜ」

作文四つの要素
「見たこと」
「行動」
「会話」
「感じたこと」



この言葉のおかげで
この言葉で○○に
気付いた
これからは、この言
葉を思い出して、
あ のとき、この言葉
があれば

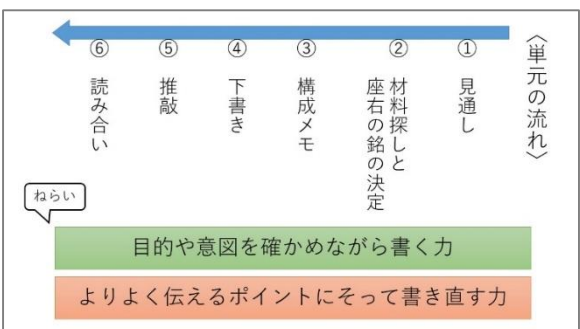
○ 自分にとっての言葉の意味を考えよう。

- ・ この言葉と出会って、わたしの努力は足りていなかったと気付いた。
- ・ この言葉のおかげで、自信がもてるようになるまで練習することが大切だと気付いた。

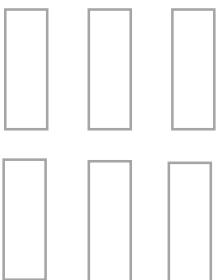
ふり返り

- ・ 「座右の銘」から伝わるメッセージを考えることで、経験を思い出しやすくなった。
- ・ 「座右の銘」と結び付く経験を思い出し、そこから自分にとっての意味を考えると、伝えたいことがはっきりすると分かった。

※学習活動1の場面で
児童に提示したスライ
ド資料



前時で模造紙に貼った「大切にしたい言葉カード」は、授業前に取り外し、児童一人一人に配付しておく。



〈第3時〉

(1) 本時の目標

- 集めた材料を分類して整理し、座右の銘とそれに結び付く経験を伝えるための文章の構成を考
ることができる。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
思考・判断・表現	「書くこと」において、伝えたいことを明確にして、文章の構成を考えている。	伝えたいことを明確にして、文章のつながりや配列を考えたり、総括する内容を位置付ける箇所を考えたりして、構成メモを書いている。

※ 本時は、B(1)イに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、単元の目標としていないことから、本単元の評価には含めない。

(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
1 前時の学習を想起し、めあてを確認する。	○ 数名のワークシートを紹介し、前時考えた「自分にとっての言葉の意味」をよりよく伝えることを目的に構成を考えることを確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">文章全体の構成を考え、構成メモを書こう。</div>		
2 構成メモの書き方を知る。	○ 構成メモ作成の見通しをもてるよう、作成手順を明示する。 ① 事実と意見を分ける。 ② 一番伝えたいことを述べる部分を検討する。(頭括・尾括・双括) ③ 主張を支える理由や具体例を述べる部分を検討する。 ○ 構成の違いによって意図の伝わり方が変わることを実感できるように、黒板に掲示した構成メモのモデルを操作して児童に示す。	
3 前時にワークシートに貼った付箋を基に、随筆で取り上げたい出来事や経験について整理し、構成メモを作成する。	○ 出来事や経験と感想が分かれていない付箋があれば、話の中心が明確になるよう分けて書くことを伝える。 C：考えに対してどの理由や具体例を選択すればよいか分からない児童には、付箋を入れ替える操作を一緒に行い、意見の伝わり方の違いを感じられるようにする。	[思考・判断・表現] B：伝えたいことを明確にして、文章のつながりや配列を考えたり、総括する内容を位置付ける箇所を考えたりして、構成メモを書いている。 (ワークシート・振り返りカードの記述)
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">構成の工夫について</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分にとっての言葉の意味を強調して伝えたいので、「初め」と「終わり」の2回書こう。 ・ 伝えたい思いの後にそう感じた出来事を書くことで説得力をもたせよう。 		

<p>・ 具体例を述べる部分をはじめにすることで、読む人の興味を引き付けよう。</p> <p>4 グループで構成を見合い、意見を伝え合う。</p> <p>5 友達の意見を受けて再度構成メモを見直す。</p> <p>・ 出来事に対して感想を書いていないところがあるから書き加えよう。</p> <p>・ 友達のように、双括型にすると自分が感じたことをもっと強調できそうだから、取り入れよう。</p> <p>6 本時の学習を振り返りカードに記入する。</p> <p>・ 事実と意見を分けて書くとき書いたことが整理でき、伝えたいことがさらにはっきりした。</p> <p>・ 「自分にとっての言葉の意味」をどこに書くかで、文章の印象が変わることが分かった。</p>	<p>○ 構成をよりよくするための助言ができるよう、交流の視点を示す。</p> <p>① 出来事や経験と感想の書き分けができてきているか。</p> <p>② 考えと理由のつながりはあるか。</p> <p>③ 自分の考えた構成との共通点や相違点はどこか。</p> <p>○ 読み手を意識した随筆を書くという単元のねらいを意識できるよう、助言を得た点を中心に構成を検討するよう伝える。</p> <p>○ 構成メモを作成するときに、どのようなことを考えて内容を選んだり順番を決めたりしたのかについて振り返るように伝える。</p>	
---	---	--

大切にしたい言葉

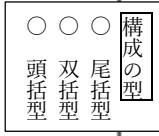
めあて

文章全体の構成を考え、構成メモを書こう。

自分にとっての言葉の意味（自分なりの見方や考え方）
＝一番伝えたいこと
教材文で一番伝えたいことは？

- 自分の努力が足りなかったと気付いたこと
- 自信がもてるようになるまで練習することが大切

引用	出来事	経験①	経験②	経験③	終わり
	秋の発表会で劇をしたこと	せりふの多い役になり家で何度も練習した	リハーサルも本番も自信がなく、小さい声になった	同じ場面の登場人物を演じた花村さんはいきいきと演技していた	
感想や意見、自分にとっての言葉の意味 (見方や考え方)		感想	「どうして堂々と演じられな いんだろう。」と悲しくなった	花村さんのことがうらやま しかった	
				よく考えると、せりふを覚え た後は、練習をするのを止 めてしまっていた	
				花村さんは、休憩時間や放 課後も練習をしていた	
					自分にとっての言葉の意味 自信がもてるようになるま で練習することが大切だ



まとめ

- ・ 出来事や経験と感想を分けて書くとき、書きたいことが整理でき、伝えたいことがさらにはつきりした。
- ・ 「自分にとっての言葉の意味」をどこに書くかで、文章の印象が変わることが分かった。

〈第4・5時〉

(1) 本時の目標

- 目的や意図に応じた表現になるよう、語や語句を工夫して下書きをすることができる。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
知識・技能	語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、適切な語や語句を使っている。	構成メモを基にして、書く目的に応じた文末表現を考え、下書きをしている。
思考・判断・表現	「書くこと」において、目的や意図に応じて、出来事や経験と感想とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	自分の考えを伝えるために、座右の銘に結び付く出来事や経験と感想を分けたり、出来事や経験と感想、考えの関係を説明したりして下書きをしている。

※ 本時は、B(1)ウに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、単元の目標としていないことから、「思考・判断・表現」については本単元の評価には含めない。

(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
1 前時の学習を想起し、めあてを確認する。	○ 数名の振り返りを書いたワークシートを紹介し、前時考えた構成メモを基に、下書きをすることを確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 下書きをして、自分が書こうとした意図を確かめよう。 </div>		
2 構成メモを基に、「表現と意図ぴったりシート」に下書きをする。	○ 随筆の構成が想起できるように、前時までの学習内容をまとめた資料を教室横に掲示する。 ○ 文章全体の目的や意図を意識して下書きをしたり、推敲をしたりする活動につなげるために、「表現と意図ぴったりシート」に目的と意図を記入する。 C：書き出せない児童には、モデル文や教材文の書き出しを参考にするように声を掛ける。 ○ 文章全体の目的や意図に応じた下書きになるよう、「表現と意図ぴったりシート」に記入した目的を随時確かめるように促す。 その際、「伝える相手にふさわしい文体か」「出来事や経験は自分にとっての言葉の意味を説明しているか」「自分にとっての言葉の意味が明確になるよう、出来事や経験と感想、意見を分けて書いているか」を振り返りの観点として示す。 C：出来事や経験と自分にとっての言葉の意	[思考・判断・表現] B：自分の考えを伝えるために、座右の銘に結び付く出来事や経験と感想を分けたり、出来事や経験と感想、考えの関係を説明したりして下書きをしている。(表現と意図ぴったりシート、振り返りの記述) [知識・技能] B：構成メモを基にして、書く目的に応じた文末表現を考え、下書きをしている(表現と意図ぴったりシート、振り返りの記述)

<p>4 下書き記述時に考えていた意図の具体を「表現と意図ぴったりシート」に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この部分で伝えなかった「くやしき」は、劇に向けて自信がもてず、本番でも全力が出せなかった自分へのいらいらだ。 ・ この部分で伝えなかった「悲しさ」は、自分の夢を叶えるのは無理だと思ひ、友達に反論できなかつた自分につながりした「悲しさ」だ。 <p>5 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目的や意図を確かめながら書くことで、伝えたいことを意識できると分かつた。 ・ 文末表現を変えることで、読む人の感じ方が変わると分かつた。 ・ 自分の気持ちを下書きの後にもう一度考えることで、そのように感じた理由を見付けることができた。 	<p>味との関係を説明できていない児童には、主張（考え）、根拠（経験）、理由（経験から感じたこと）の関係を図示し、理由を言語化するよう促す。</p> <p>○ 意図の書き方の見通しをもてるよう、「すいすい推敲シート」を活用した作成手順のモデルを示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自分の書いた「表現と意図ぴったりシート」の下書きを読み返し、心情の記述に印を付ける。 ② 印を付けた気持ち（うれしい、悔しい等）について、「すいすい推敲シート」の例を参照し、下書き記述時に考えていた意図の具体を書く。 ③ 新たに記入した意図の具体と下書きの心情の記述にズレがないかを確認する。 <p>○ 記述時に考えていた意図の具体が書けない児童には、考えのきっかけとなる型を複数示す。また、構成メモの出来事や経験について聞き取り、そのときの気持ちを引き出す。</p> <div data-bbox="539 1025 1114 1126" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「この部分で感じた（気持ち）は、…」 ・ 「どんな（気持ち）だったかという、…」 </div> <p>○ 次時は、下書きと意図を比べて、適切な表現になるように書き直しをすることを伝える。</p>	
---	---	--

大切にしたい言葉

めあて

下書きをして、自分が書こうとした意図を確かめよう。

目的：卒業文集のために、座右の銘をテーマに随筆を書く
意図：（構成メモに書いた「一番伝えたいこと」を書く）

この部分で伝えたかった「悔しさ」は、劇に向けて自信がもてず本番でも全力が出せなかった自分へのいらいらだ。

この部分で伝えたかった「悲しさ」は、自分の夢をかなえるのは無理だと思い、友達に反論できなかった自分がかっかりした悲しさだ。

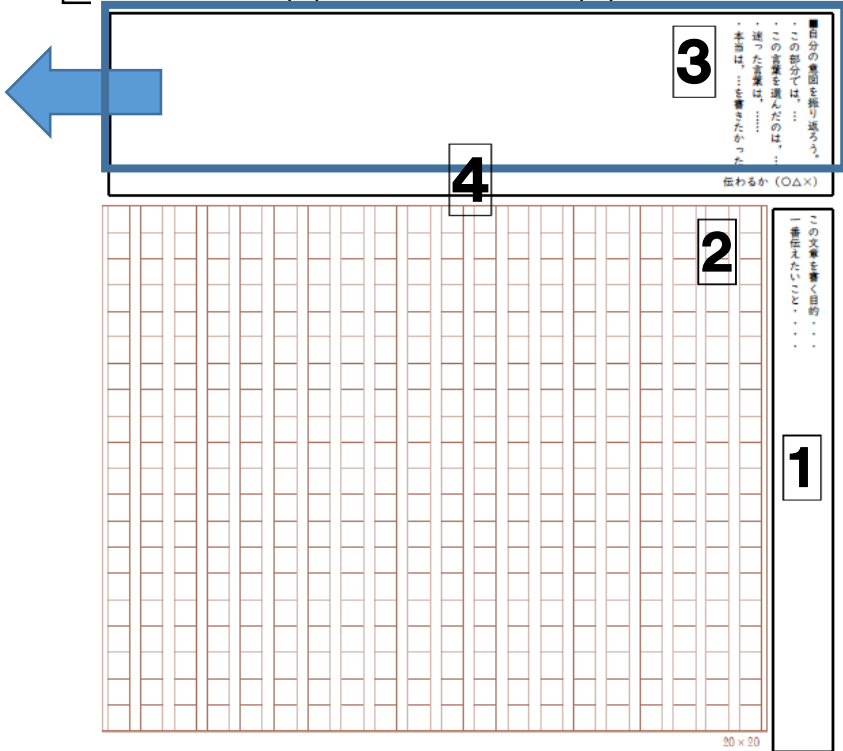
この段落で伝えたかった「心の広さ」は、いつでも祖母が私たちのことを受け入れてくれるやさしさのことだ。

3 【書こうとした意図（下書き記述時に考えていた意図）の書き方】

- ① 「表現と意図びったりシート」に書いた下書きを読み返し、気持ちの部分に印をつける。
- ② 印をつけた気持ちについて、「すいすい推敲シート」の例を見ながら、意図を具体的に書く。
- ③ 具体的になった意図と下書きがズレていないかどうか確かめる。

まとめ

- ・ 目的や意図を確かめながら書くことで、伝えたいことを意識できると分かった。
- ・ 文末表現を変えることで、読む人の感じ方が変わると分かった。
- ・ 自分の気持ちを下書きの後にもう一度考えることで、そのように感じた理由を見付けることができた。



〈第6時〉

(1) 本時の目標

- 意図がより明確に読み手に伝わるように表現を吟味し、文や文章を書き直すことができる。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
思考・判断・表現	「書くこと」において、目的や意図に応じた適切な表現になっているかを吟味し、文や文章を書き直している。	下書き記述時の意図に対して、下書きが適切な表現になっているかを吟味し、文や文章を書き直している。

(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
1 前時の学習を想起し、めあてを確認する。	○ 数名の振り返りを書いたワークシートを紹介し、前時考えた下書きを基に、推敲することを確認する。	
下書きを読み返し、読み手に意図が伝わるように文章を書き直そう。		
2 推敲の観点と書き直し方を確認する。 ・ ㊦意図は「うらやましい」と書いてあるけれど、「いいなと思った」が意図に対応していないと感じたから（「いいなと思った」のところを「うらやましいと思った」に変えた）。 ・ ㊧家での練習について詳しく書くことで、練習したつもりなのに「不安」を説明できなくなったから。 ・ ㊨「悲しい」という表現を「情けない」に変えると、努力したことがむだになったという意図がより伝わると思ったから。	○ 推敲の観点を確認できるよう、学級全体で「すいすい推敲シート」に沿ってモデル文を書き直す。 観点 ① もっと正しく（意図の明確化）【前時】 ② もっと分かりやすく（意図と経験のつながり） ③ もっと強く（よりよい表現の工夫）	
3 「表現と意図ぴったりシート」に書いた下書きを、「すいすい推敲シート」の観点に沿って書き直す。	○ どの観点をういたのかを意識できるよう、書き直す際には「表現と意図ぴったりシート」に㊦・㊨の記号と、書き直した理由を書くように伝える。 ○ 意図を伝えられる表現を吟味できるよう、国語辞典や類語辞典、教科書巻末にある「言葉の宝箱」にある言葉を紹介する。（㊩） ○ 意図の伝わる出来事や経験が書けているかを確認できるよう、友達と助言しあってもよいことを伝える（㊦）。 ○ 書き直し方の具体がイメージできるよう、効果的な書き直しをしている児童を取り上げて、書き直した理由を適宜説明させる。	[思考・判断・表現] B：下書き記述時の意図に対して、下書きが適切な表現になっているかを吟味し、文や文章を書き直している。（表現と意図ぴったりシート、振り返りの記述）

<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「すいすい推敲シート」を使うことで、相手に意図を伝えるためには中心になる経験をくわしくすることが大切だと分かった。 ・ 意図と対応するように表現を考えることで、伝えたいことがよりはっきりした。 ・ 言葉をいろいろ言い換えることで、意図にぴったりした表現を見付けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書き直すことでよりよい表現になったことを実感できるよう、書き直す前の文章は消さずに残し、「表現と意図ぴったりシート」下段に書き直した理由を書くよう指示する。 ○ C：どこを書き直せばよいか分からない児童には、意図と表現を比較して、線を引いた下書きの心情と意図に書いた心情にズレがないかを改めて確認するように促す。 ○ 次時は、グループ内で相互推敲することで、さらに適切な表現になるように書き直しをすることを伝える。 	
---	---	--

大切にしたい言葉

めあて

下書きを読み返し、読み手に意図が伝わるように文章を書き直そう。

推敲の観点 (すいすい推敲シート)

- ・ もっと正しく (意図の明確化)
- ・ もっと分かりやすく (意図と経験のつながり)
- ・ もっと強く (よりよい表現の工夫)

〈モデル文での推敲〉

<p>■自分の意図を振り返ろう</p> <p>・ この部分で伝えなかった「不安」は、家で練習してセリフだけ覚えたと覚えたけれど、本番でできるかどうかは自信がないという「不安」だ。</p> <p>・ この部分で伝えなかった「悲しさ」は、緊張が高まってセリフを忘れてしまい、今まで努力したことがむだになった悲しさだ。</p> <p>・ この部分で伝えなかった「楽しくなかった」気持ちには、友達からセリフを教えたもらったことがはずかしいという気持ちだ。</p> <p>・ この部分で伝えなかった「いいな」という気持ちには、ぼくが練習したはずなのに、花村くんだけ上手にできて、うらやましいという気持ちだ。</p>	<p>伝わるか○△×</p> <p>ぼくが座右の銘にしたい言葉は、「日々の積み重ねが自信をつくる」だ。これは、体操選手の川野歩実さんの言葉だ。</p> <p>秋の発表会で、ぼくはセリフの多い役になった。立候補して、その役になったのでうれしく、家でも練習した。けれど不安は、本番までなくならなかった。</p> <p>出番が来てステージに立つと、たくさんのお客様さんがぼくを見ているのが見えた。すごく緊張してきた、セリフが思い出せなくなった。とても悲しかった。友達にセリフを教えてもらって何とか終わったけど、楽しくなかった。</p> <p>同じ場面の人物を演じた花村くんは、大きな声で堂々としていた。何でもできる花村くんのことかいいなと思った。</p>
--	--

④ 家での練習について詳しく書くことで、練習したつもりなのになくならない「不安」を説明できると思ったから。

⑤ 「悲しい」という表現を「情けない」に変えると、努力したことがむだになったという意図がより伝わると思ったから。

⑥ 意図に「うらやましい」と書いてあるけれど「いいなと思った」が意図に対応していないと感じたから。

まとめ

- ・ 「すいすい推敲シート」を使うことで、相手に意図を伝えるためには、中心になる経験を詳しく説明することが大切だと分かった。
- ・ 意図と対応するように表現を考えることで、伝えたいことがよりはっきりした。
- ・ 言葉をいろいろ言い換えることで、意図にぴったりした表現を見付けることができた。

〈第7時〉

(1) 本時の目標

- グループで意図と表現の関係を説明し合い、相互に推敲する活動を通して、自分の考えが伝わるかどうかを確かめ、適切な表現に書き直すことができる。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
思考・判断・表現	「書くこと」において、目的や意図に応じた適切な表現になっているかを吟味し、文や文章を書き直している。	下書き記述時の意図に対して、下書きが適切な表現になっているかを吟味し、文や文章を書き直している。
主体的に学習に取り組む態度	座右の銘を紹介する文章を書く際に、目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く吟味し、文章を書き直そうとしている。	推敲の観点を基に、下書きが目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く吟味して、文章を書き直そうとしている。

(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
1 前時の学習を想起し、めあてを確認する。	○ 振り返りを書いたワークシートから、観点を基に推敲するよさを述べたものを紹介し、本時はより相手意識をもって書き直せるように相互推敲することを確認する。	
下書きを互いに読んで助言し合い、適切な表現に書き直そう。		
2 「表現と意図ぴったりシート」に書いた下書きを、「すいすい推敲シート」の観点到に沿って読み、気付いたことを助言し合う。 ㊦ 出来事と感想の文がきちんと分かれていないので、気持ちの変化が分かりにくかった。もう少し文を短くするとよいと思う。 ㊧ 意図に「友達に負けたこと」と書いてあったから、「悲しい」と書くより「くやしい」と書くことで気持ちがより伝わると思う。 ㊨ 自分の経験を書くとき、そのときの会話や周りの様子の描写があったから分かりやすかった。 ㊩ 「頬を赤らめた」という表現が、はずかしい気持ちをよく表していると思ったので、わたしも使ってみたくなった。	○ 観点到に沿った推敲となるよう、すいすい推敲シートを全体で確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 観点到 ① もっと正しく（意図の明確化） ② もっと分かりやすく（意図と経験のつながり） ③ もっと強く（よりよい表現の工夫） </div> ○ グループで意図に応じて助言し合えるよう、文章を読む際には下書きだけでなく、記述時の意図を同時に読むことを伝える。 ○ 児童自身の下書きと友達からの助言が混ざらないよう、助言を付箋に書き込んで「表現と意図ぴったりシート」に貼る。 ○ 観点到を基に助言できるよう、助言を書き込む付箋にどの観点到についての助言なのか、 正・分・強 の記号で示し、理由も書き加えることを確認する。 ○ 相手の文章を共感的に受け止め、建設的に助言できるよう、読みにくさや分かりに	[思考・判断・表現] B：下書き記述時の意図に対して、下書きが適切な表現になっているかを吟味し、文や文章を書き直している。（表現と意図ぴったりシート、振り返りの記述） [主体的に学習に取り組む態度] B：推敲の観点を基に、下書きが目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く吟味して、文章を書き直そうとしている。

<p>3 友達の助言を基に、個人で下書きを推敲する。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が読み返したときには気にならなかった部分を友達から教えてもらい、表現を吟味して書き直すことができた。 ・ 実際に読んでもらうことで、相手がどう感じるかを考えながら書き直すことができた。 ・ 自分の伝えたいことをはっきりと伝えるためには、経験を具体的にすることと、読んでいる人に分かりやすい言葉を使うことが大切だと分かった。 	<p>くさ等の改善点だけでなく、自分も真似したいと思える部分等、文章の良さも見付けさせる。</p> <p>C：友達の文章のどこに着目して見ればよいか分からない児童には、「すいすい推敲シート」や前時に使用したモデル文を提示し、表現と意図のズレに着目させる。また、「どうしてその気持ちになったのかが、分かりにくかった」「どんな気持ちだったのか、くわしく書いてほしい」等、付箋に書く表現の型を示す。</p> <p>○ 相手意識をもって書き直すよさを実感できるよう、友達からの助言を受けて書き直す部分は、付箋に記入して「表現と意図ぴったりシート」に貼り付ける。</p> <p>○ 次時は、書き直した下書きを基に清書することを伝える。</p>	
---	--	--

大切にしたい言葉

めあて

下書きを互いに読んで助言し合い、適切な表現に書き直そう。

推敲の観点 (すいすい推敲シート)

- もつと正しく (意図の明確化)
- もつと分かりやすく (意図と経験のつながり)
- もつと強く (よりよい表現の工夫)

※友達からの助言を受け、自分で書き直した表現を記入した付箋

自分の意図を振り返ろう

○△× 伝わるか

⑤

- この部分で伝えなかった「不安」は、家で練習してセリフだけはきちんと覚えただけで、本番までできるかどうか自信がもてないという「不安」だ。
- この部分で伝えなかった「悲し」は、緊張が高まってセリフを忘れてしまい、今まで努力したことがむだになった悲しさだ。
- この部分で伝えなかった「楽しくなかった」気持ちは、友達からセリフを覚えてもらったことがはずかしいという気持ちだ。
- この部分で伝えなかった「いいな」という気持ちは、ぼくも練習したはずなのに、花村くんだけ上手にできて、うらやましいという気持ちだ。

ぼくが座右の銘にしたい言葉は、「日々の積み重ねが自信をつくる」だ。これは、体操選手の川野歩実さんの言葉だ。

秋の発表会で、ぼくはセリフの多い役になった。立候補してその役になったのでうれしく、家でも練習した。けれど不安は、本番までなくならなかった。

出番が来てステージに立つと、たくさんのお客さんがぼくを見ているのが見えた。すると急に緊張してきて、セリフが思い出せなくなった。とても悲しかった。友達にセリフを覚えてもらって何とか終わったけれど、楽しくなかった。

同じ場面の人物を演じた花村くんは、大きな声で堂々としていた。何でもできる花村くんのことがいいなと思った。

何度も練習してセリフを覚えたのに、どうしても自信がもてず不安なまま本番をむかえた。

まとめ

- 自分が読み返したときには気にならなかった部分を友達から教えてもらい、表現を吟味して書き直すことができた。
- 実際に読んでもらうことで、相手がどう感じるかを考えながら書き直すことができた。
- 自分の伝えたいことをはっきりと伝えるためには、経験を具体的にすること、読んでいる人に分かりやすい言葉を使うことが大切だと分かった。

8 〈第8時〉

(1) 本時の目標

- 推敲の観点によって検討した表現の工夫を踏まえながら、随筆を清書することができる。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
知識・技能	語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	書き直した言葉や文、文章が、目的や意図に応じた表現になるように清書をしている。
思考・判断・表現	「書くこと」において、目的や意図に応じた適切な表現となっているかを吟味し、文や文章を書き直している。	推敲の観点を基に、自分の伝えたいことが明確になるように表現を吟味している。

(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
1 前時の学習を想起し、めあてを確認する。	○ 振り返りを書いたワークシートから、相手意識をもって書き直すことのよさを述べたものを紹介し、本時は目的や意図を確かめながら随筆を清書することを確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">推敲したことを生かして、ずい筆を清書しよう。</div>		
2 随筆を原稿用紙に清書する。	○ 表現を確かめながら清書できるよう、前時に書いた下書きの中から、「経験と意図のつながりの悪さ」等、多かった課題を紹介する。また、「表現と意図ぴったりシート」で、改めて意図と表現の関係を確かめるように促す。 ○ 繰り返し推敲することでよりよい文章にすることができるよう、清書中であっても意図に応じた表現を思い付いたときには、これまでの書き直しにこだわらず積極的に取り入れるよう伝える。 ○ 言葉や文、文章が適切に使えているかやリズムを確かめるために、清書をする前に下書きを音読する。 C：前時までに書いた下書きを原稿用紙に書き写すだけにとどまっている児童には、具体的に書き直す余地のある箇所を示し、自分の文章を改めて読む必要性を感じさせる。	〔知識・技能〕 B：書き直した言葉や文、文章が、目的や意図に応じた表現になるように清書をしている。(音読での態度、清書をした原稿用紙の記述、振り返りの記述) 〔思考・判断・表現〕 B：推敲の観点を基に、自分の伝えたいことが明確になるように表現を吟味している。(原稿用紙の記述、振り返りの記述)
3 本時の学習を振り返る。 ・ 推敲の観点を確認しながら書くことで、より意図にぴったりする言葉	○ 次時は、清書した随筆をお互いに読み、感想を伝え合うことを伝える。	

<p>を見付けることができた。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 推敲しながら清書をすることで、 今までの学習では気付かなかった意 図と表現とのズレに気付くことが できた。		
---	--	--

大切にしたい言葉

めあて

推敲したことを生かして、ずい筆を清書しよう。

前時に書いた下書きの中から
多かった課題を紹介

推敲の観点

(すいすい推敲シート)

- ・ もっと正しく (意図の明確化)
- ・ もっと分かりやすく (意図と経験のつながり)
- ・ もっと強く (よりよい表現の工夫)

〈清書の流れ〉

1. 下書きの音読
2. 推敲しながら清書

- ① 経験と意図のつながりの悪さ
(経験過多、経験の説明不足)
- ② 意図とつながりの悪い経験
事実と感想が一文に混在
- ③ 難解な表現を多用
- ④ 不適切な表現
- ⑤ 心情の重複

まとめ

- ・ 推敲の観点を確認しながら書くことで、より意図にぴったりする言葉を見付けることができた。
- ・ 推敲しながら清書をすることで、今までの学習では気付かなかった表現と意図のズレに気付くことができた。

〈第9時〉

(1) 本時の目標

- 推敲の観点を基に、互いの随筆に対する感想を友達に伝え合い、自分の文章のよいところに気付くことができる。

(2) 本時の評価規準

観点	評価規準	具体的な児童の姿
思考・判断・表現	「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。	推敲の観点を基に随筆の感想を友達と伝え合い、自分の随筆のよいところに気付き、ワークシートに書いている。

※ 本時は、B(1)カに基づいて学習状況を捉え指導を行うが、単元の目標としていないことから、本単元の評価には含めない。

(3) 本時の学習過程

学習活動	指導上の留意事項 (C：配慮を要する児童への支援)	評価規準・評価方法
1 前時の学習を想起し、めあてを確認する。	○ 振り返りを書いたワークシートから、推敲の観点を意識しながら清書することのよさを述べたものを紹介し、本時は互いの文章を読み合い、推敲した文章のよさを伝え合うことを確認する。	
完成しないうい筆を読んで感想を伝え合い、自分の文章のよさを見付けよう。		
2 友達と随筆を読み合い、グループで感想を伝え合う。 ・ 「吹切れた」という表現から、これまで悩んでいた〇〇さんの気持ちが大きく変化したことがよく伝わってきた。わたしもっと表現を工夫したいと思った。 ・ テストで高い得点が取れなかった経験について、気持ちや様子を具体的に書いてあるから、読んでいて共感できた。	○ 目的や意図に応じた表現に着目することができるよう、これまでの推敲の観点を確認し、観点を基にして感想を付箋に記入するよう指示する。その際、視点を明示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">① 推敲の観点を基に、内容や表現が工夫してあるか ② 工夫によってどのような効果を感じたか ③ 自分の文章との共通点や相違点はあるか</div>	
3 自分が書いた随筆のよさについて振り返る。 ・ 類語辞典で調べて自分の気持ちにぴったりした表現に書き直したところが、読み手を引き付ける文章になった。 ・ 経験と意図がぴったりしているか確かめて、気持ちを詳しく書いたところは、分かりやすいと言っても	○ 書き直した文章のよさを確かめるために、初稿の下書きを配付して清書と比較させ、書き直したことで「より正しく」「より分かりやすく」「より強く」なったところに線を引かせる。また、「すいすい推敲シート」を参照させ、どの観点が特に文章の改善につながったのかを確認させる。 C：書き直した文章のよさを見付けられな	[思考・判断・表現] B：推敲の観点を基に随筆の感想を友達と伝え合い、自分の随筆のよいところに気付き、ワークシートに書いている。(ワークシートの記述)

<p>らえた。</p> <p>4 単元を通して学んだことを振り返る。</p> <p>目的や意図を確かめながら書く力</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の意図を何度も確かめることで、文章を書くときに本当に言いたかったことを考えるようになったと思う。 目的や相手を常に意識して書くことで、伝えたいことからズレずに文章を書くことができた。 <p>意図を伝えるために観点をもって書き直す力</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までは、漢字や言葉の間違いを見直せばよいと思っていたけれど、自分の意図が伝わっているかどうかを確かめることが大切だと気付いた。 	<p>い児童には、よさに気付けるよう友達からもらった付箋を改めて読ませたり、表現の変容が見られる箇所を教師が示したりする。</p> <p>○ 学習内容を確かめられるよう、単元の学習計画や身に付けてほしい力を改めて提示する。</p>	
---	---	--

大切にしたい言葉

めあて

完成しただい筆を読んで感想を伝え合い、
自分の文章のよさを見つけよう。

推敲の観点

(すいすい推敲シート)

- ・ もっと正しく (意図の明確化)
- ・ もっと分かりやすく (意図と経験のつながり)
- ・ もっと強く (よりよい表現の工夫)

交流するときの視点

- ① 推敲の観点を基に、内容や表現が工夫してあるか
- ② 工夫によってどのような効果を感じたか
- ③ 自分の文章との共通点や相違点はあるか

〈自分の文章のよさ〉

- ・ 類語辞典で調べて自分の気持ちにぴったりした表現に書き直したところが、読み手を引き付ける文章になった。
- ・ 経験と意図がぴったりしているかを確認めて、気持ちを詳しく書いたところは、分かりやすいと言ってもらえた。

目的や意図を確かめながら書く力

- ・ 自分の意図を何度も確かめることで、文章を書くときに本当に言いたかったことを考えるようになったと思う。
- ・ 目的や相手を常に意識して書くことで、伝えたいことからズレずに文章を書くことができた。

意図を伝えるために観点をもって書き直す力

- ・ 今までは、漢字や言葉の間違いを見直せばよいと思っていたけれど、自分の意図が伝わっているかどうかを確認することが大切だと気付いた。

※学習活動4の場面で
児童に提示したスライ
ド資料

